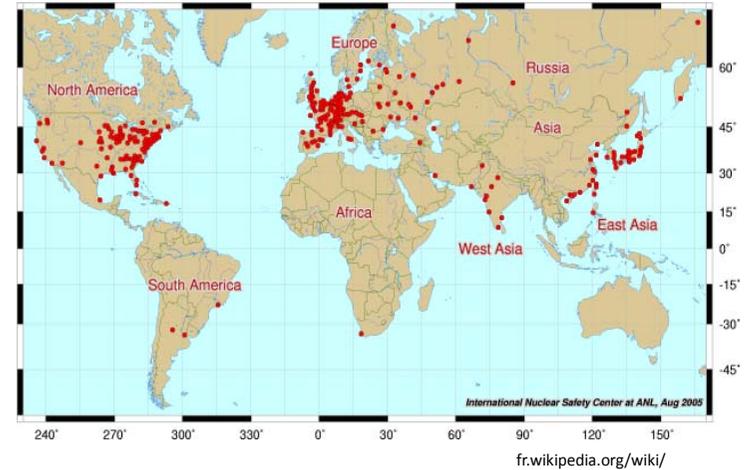


原発大国 フランスの実情

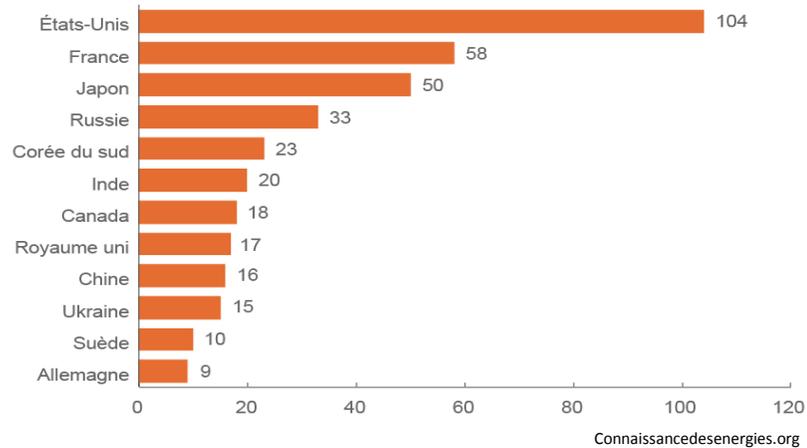
～われわれは何を学ぶことができるのか？～

北星学園大学 社会福祉学部
高橋百代
2014年11月28日

No. 1



No. 2

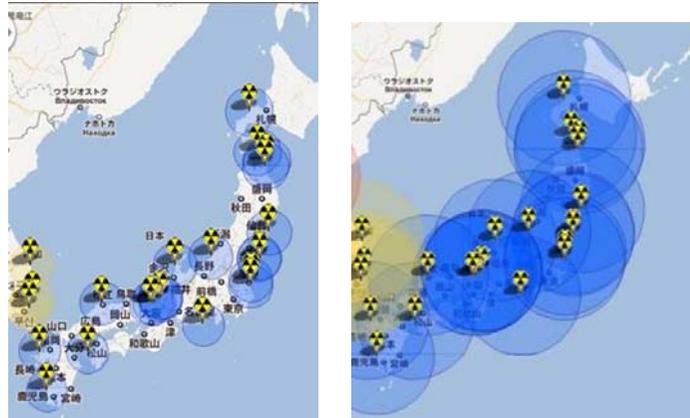


No. 3



国土面積: 551,500km² (日本の1.5倍)・人口: 6,570万人 (日本の1/2)

No. 4



左図: 原発から100キロ圏内
 右図: 原発から300キロ圏内
 国土面積: 377,90km² ・人口: 1億2,760万人

<http://oyade.blog.fc2.com>

	国土面積	人口	森林%	平地面積	原子炉数
フランス (海外県は除く)	551,500km ²	6,500万人	30%	386,050km ²	58基
日本	377,900km ²	1億2,760万人	70%	113,370km ²	54基

1. フランスの原発推進への流れ

2. フクシマ後のフランス

- * フクシマの報道・大統領選挙・世論
- * 過去への検証・国の語るまやかし
 - ・エネルギーの独立
 - ・原発は低コスト
 - ・地球温暖化対策
 - ・原子力産業
- * 原発反対運動

3. 日本がフランスから学ぶこと

- * メディアの役割
- * エネルギー転換に向かって
シナリオ「ノエ」・「450ppm」

4. 結論

フランス版原子力村

原子力開発分野の高級官僚集団: 国立高等鉱業学校Ecole de Mine 出身者
 公団公社: フランス電力公社・原子力委員・アレバ社
 地方有力者: 建設予定地知事→多額の交付金

+

90年代以降: 原子力産業界

「フクシマから学ぶべきフランスの5つの教訓」 ASN ラコスト

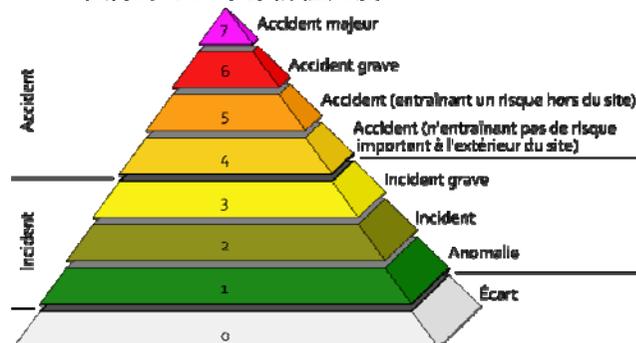
1. 自然災害の見直し(洪水・地震)
2. 老朽化した原発の補強作業
3. メンテナンスの見直し
4. 危機管理の見直し (テロ対策や放射性物質の輸送)
5. 冷却装置の重要性

原発の建設、改修、解体、保管費用見積り試算 (バンジャマン・ドウスユ)

新たに原子炉を建設 EPR欧州加圧型軽水炉:	2008年7月に34億ユーロ、2ヶ月後に40億ユーロ、 2010年7月には50億ユーロ、 2011年7月には60億ユーロと修正されている。(一基あたり)
既存の原発の改修費用: (全体)	2008年7月124億ユーロ 2010年7月350億ユーロ
解体費用: 中高放射性廃棄物	2000年2億2000万ユーロ→2011年20倍
地層保管費用:	2006年150億ユーロ→2011年350億ユーロ

No. 7

国際原子力事象評価尺度



1957年 旧ソ連、チェリャビンスクの軍事施設	レベル5~6	グラスノステで発覚
1979年 スリーマイル島	レベル 5	
1986年 チェルノブイリ	レベル 7	
2011年 フクシマ	レベル 7	

No. 8





略字

Ecole de Mine: 国立高等鉱業学校

CEA : 原子力・代替エネルギー庁: Commissaria à l'Energie Atomique aux Energies Alternatives

EDF : フランス電力会社 : Electricité De France

ASN : 原子力安全局 : Autorité de Sûrté Nucléaire

IRSN : 放射線防護・原子力安全研究所 : Institut de Radioprotection et Sûrté Nucléaire

CRS : 国家保安機動隊 : Compagnies Républicaines de Sécurité

CRIIRAD: 放射能に関する調査および情報提供の独立委員会 :

Commission de Recherche de d'Information Indépendantes sur la Radioactivité

CNRS : 国立科学研究センター : Centre National de Recherche Scientifique

IEA : 国際エネルギー機関 : International Energy Agency